



TITLE:

自傷による陰茎切断の3例

AUTHOR(S):

米田, 傑; 金城, 孝則; 種田, 建史; 竹澤, 健太郎; 野村, 広徳; 鄭, 則秀; 高田, 晋吾; 松宮, 清美

CITATION:

米田, 傑 ...[et al]. 自傷による陰茎切断の3例. 泌尿器科紀要 2012, 58(11): 621-624

ISSUE DATE:

2012-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166347>

RIGHT:

許諾条件により本文は2013-12-01に公開

自傷による陰茎切断の3例

米田 傑, 金城 孝則, 種田 建史, 竹澤健太郎
野村 広徳, 鄭 則秀, 高田 晋吾, 松宮 清美
大阪警察病院泌尿器科

THREE CASES OF PENILE SELF-MUTILATION

Suguru YONEDA, Takanori KINJO, Takeshi OIDA, Kentaro TAKEZAWA,
Hironori NOMURA, Norihide TEI, Shingo TAKADA and Kiyomi MATSUMIYA
The Department of Urology, Osaka Police Hospital

Penile self-mutilation is rare. We report our experience with 3 cases of penile self-amputation. One case was in a 48-year-old man who had no background history of mental disorders. He amputated his penis using a utility knife. He was referred to our hospital and underwent suture of the wound, but he took his own life one week after the surgery. Another case was in a 42-year-old man who had intelligence impairment. He amputated his penis using a kitchen knife. The other case was in a 41-year-old man who had schizophrenia. He amputated his penis using a piece of broken glass.

(Hinyokika Kiyo 58 : 621-623, 2012)

Key word : Penile mutilation

緒 言

自己陰茎切断の報告はまだ少なく、日常診療で遭遇することは稀である。陰茎切断は過去に精神科的異常を認めることが多い。今回われわれは過去に精神科的異常を認めない陰茎自己切断症例で、その後自殺に至った症例を経験した。そこで、当院でこれまでに経験した自己陰茎切断2例を加えて報告する。

症 例

患者1 : 48歳, 陰茎部分切断

主訴 : 陰茎切断

既往歴 : 糖尿病, 狭心症 (術後), 精神科既往歴なし。

現病歴 : 2012年4月, 飲酒酩酊後にカッターナイフで自己陰茎切断を施行した。受傷3日後近医を受診し, 応急処置をされた。その2日後加療目的にて当科外来を紹介受診となった。

身体所見 : 陰茎根部9~3時方向に長さ5cm程度, 深さ2cm程度の切創あり, 創部痛を認めないが, 発赤を軽度認めた。浸出液は少量。

治療経過 : 局所麻酔下に創部を生理食塩水にて十分に洗浄後, デブリドメントを施行した。続いて, 浅陰茎筋膜・深陰茎筋を縫合し, ドレーンを留置後皮下の埋没縫合を施行した (Fig. 1)。その後外来にて創部の経過観察予定であったが, 初診から約1週間後に自宅マンション (6階) の柵を乗り越えて飛び降り自殺しているのを通行人に発見された。その直後救急車に

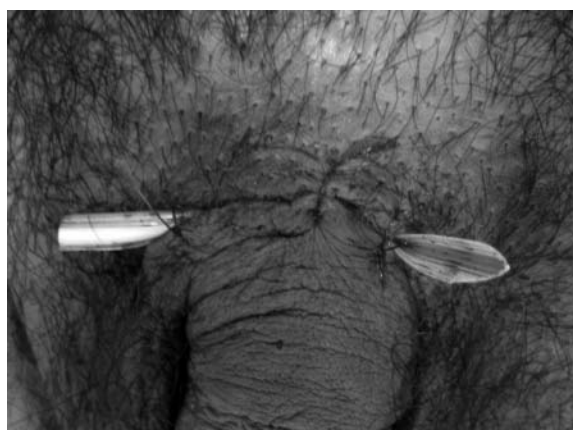


Fig. 1. After the surgery.

て当院救命救急科へ搬送されるもすでに死亡しているのが確認された。

患者2 : 42歳, 陰茎切断

主訴 : 陰茎切断

既往歴 : 知能障害, 右下腿潰瘍, 静脈瘤 (手術, 植皮), 尿道損傷・狭窄。

現病歴 : 2007年2月包丁にて自ら陰茎切断を施行。受傷8日後当科受診。

身体所見 : 陰茎完全切断。

治療経過 : 断端修復も検討したが, 知能障害のため修復後の自己管理不能と判断。自然上皮化を待つこととした。約3カ月後自然に完全上皮化を認めた。約5年経過した現在, 頻尿を認めるが, その他著明な合併症なく経過している (Fig. 2)。



Fig. 2. 5 years after the injury.

患者3：41歳，陰茎部分切断

主訴：陰茎切断

既往歴：統合失調症（18歳発症）。

現病歴：2011年1月路上でズボンを下げ，自分で



Fig. 3. On admission day.

割った瓶のガラス片で陰茎切断を試みた後，通行人が要請した救急車により当院救急科へ搬送された。切断理由は「女性になりたかった」とのことであった。

身体所見：陰茎直上左から右陰囊まで約20cm程度の切創あり。右鼠径部にも15cm程度の切創あり。陰囊から精巣は脱出していた（Fig. 3）。

治療経過：浅陰茎筋膜は切断され，深陰茎筋膜にも損傷を認めた。出血点を電気メスおよび結紮縫合により止血した。精管に損傷のないことを確認した後，精巣を陰囊内へ戻し，閉創した。創部が落ち着いた後，精神科病院へ転院となった。

考 察

陰茎切断は本邦では1965年に紺屋ら¹⁾が初めて報告している。その後，1999年に鈴木らが22例の報告²⁾をまとめている。それ以後の報告を14例（自験例3例を含む）認めたのでこれらをまとめた（Table 1）。鈴木らの報告と合わせた36例の概要を以下に記載する。年齢は17～86歳（中央値41歳）と幅広い年齢層に認めたが，20歳代（26%）と40歳代（29%）の青壮年期で半数以上を占めた。これは20歳代から30歳代の男性に多いとする海外の報告^{3,4)}とも同様の結果であった。切断の程度は，完全切断19例（79%），部分切断5例（21%）であった。精巣・陰囊の同時損傷については，切断11例（37%），その他損傷4例（13%），損傷のないものが14例（50%）と約半数に精巣・陰囊の同時外傷を認めた。切断に用いた器具では，ナイフ7例（23%），はさみ7例（23%），剃刀6例（19%），包丁4例（13%）など身の周りにある日用品がほとんどであった。切断から受診までの時間では，判明しているものの内4時間以内が11例（69%），6時間以上が5例（31%）と比較的短時間の症例が多かった。陰茎切

Table 1. Penile self-mutilation in Japan (1999-2012)

症例	年齢	既往精神疾患	程度	受診時間	切断理由	切断器	切断部位	術式	精巣損傷	報告年
1	54	統合失調症	完全	>24H	自殺	ナイフ	根部	尿道瘻形成	両側露出	1999
2	51	統合失調症	完全	不明	不明	彫刻刀	不明	尿道口形成	両側切断	2001
3	79	なし* ¹	不完全	不明	不明	包丁	不明	縫合	右側露出	2001
4	42	なし* ²	完全	不明	不明	はさみ	不明	断端形成術	両側切断	2002
5	69	なし	完全	不明	保険金	不明	根部	断端形成術	なし	2002
6* ³	72	うつ病	不明	不明	不明	はさみ	不明	断端形成術	なし	2002
7* ⁴	86	うつ病	不明	不明	不明	包丁	不明	断端形成術	なし	2002
8	52	統合失調症	完全	不明	不明	はさみ	不明	断端形成術	左側切断	2004
9	53	統合失調症	完全	不明	不明	ナイフ	近位 1/3	断端形成術	両側切断	2006
10	42	アルコール離脱	不明	不明	幻覚・妄想	包丁	不明	不明	不明	2008
11	65	うつ病	不明	不明	不明	剃刀	不明	不明	不明	2008
自験例	42	知能障害	完全	>24H	知能障害	包丁	根部	なし	なし	2012
自験例	41	統合失調症	不完全	>24H	女性化願望	ガラス片	根部	縫合	左側露出	2012
自験例* ³	48	なし	不完全	>24H	不明	カッター	根部	縫合	なし	2012

*1：術後うつ病・せん妄と診断，*2：術後統合失調症疑いと診断，*3：術後自殺症例，*4：術後死亡も自殺と断定できず。

断後の再吻合が可能な生着時間については諸説があり, 18時間以内であれば血管吻合を施行しなくても尿道と海綿体の吻合でよいとする報告⁵⁾や, 低温保存下で24時間以内であれば microsurgery により再吻合可能とする報告⁶⁾や, 外傷による陰茎切断の場合, 断端の状態が良好で16時間以内であれば一期の吻合が望ましいとする報告⁷⁾など様々である. 本邦における自己陰茎切断の過去の報告での術式の選択においては断端形成・尿道(口)形成が19例(61%), 陰茎形成・再吻合が7例(23%)と再吻合している率は低い. これについては, 受傷から外来受診までの時間的な問題はもちろんであるが, 自己外陰部の損傷を繰り返した症例報告^{8,9)}もあることや自己切断という精神状態を考慮してあえて再吻合を行わない症例も多いと思われる. 精神科的疾患の既往については, 統合失調症20例(59%), うつ病4例(12%), その他の精神疾患4例(12%), 精神疾患なし4例(18%)と, 大半に精神疾患の既往を認めた. これも87%が精神疾患を認めるとする海外での報告³⁾と同様である. 切断理由は, 妄想が12例(63%)と判明している内の半数以上を占めた. その他に保険金, 包茎, 自慰行為なども認められた. 本症例(症例1)では精神科疾患の既往を認めなかった. また大量飲酒後の酩酊時の自傷であり, 来院時は落ち着いており, 受診時の対応なども特に異常を認めなかった. そのため精神科対診も検討はしたものの創部が落ち着いてからで良いと判断し, 即座には対診を行わなかった. しかし残念ながら, 初診1週間後に自殺で発見されるという結果となってしまった. 過去の報告において, もともと自殺を目的に切断した症例は少なく, 実際に自殺に至った症例はほとんどないが, 陰茎切断後早期に自殺となった症例(病院内のトイレで浴衣のヒモを用いて縊死)や自殺と断定できなかったがベッド内で死亡していた症例¹⁰⁾, そして退院日に自殺を試みた症例¹¹⁾なども認めた. また, 自己性器損傷が統合失調症の初期症状の1つであるという報告¹²⁾もある. 以上から自己陰茎切断症例においては, 自傷時の状況などに関わらず, 精神疾患の既往がなくても来院時早期に精神科対診を強く勧めるべき

であると思われた.

結 語

自己陰茎切断の3例を報告した.

自己陰茎切断症例においては, 自傷時の状況などに関わらず, 精神疾患の既往がなくても来院時に精神科対診を強く勧めるべきであると思われた.

本論文の要旨は第21回日本性機能学会中部総会において発表した.

文 献

- 1) 紺屋博暉, 竹内正文: 男子外陰部自己損傷の1例. 日泌尿会誌 **56**: 1266, 1965
- 2) 鈴木一実, 満 純考, 徳江章彦, ほか: 自己外陰部損傷の2例. 西日泌尿 **61**: 458-462, 1999
- 3) Greilsheimer H and Groves JE: Male genital self-mutilation. Arch Gen Psychiatry **36**: 441-446, 1979
- 4) Romilly CS and Issac MT: Male genital self-mutilation. Br J Hosp Med **55**: 427-431, 1996
- 5) Engleman ER, Polito G, Perley J, et al.: Traumatic amputation of the penis. J Urol **112**: 774-778, 1974
- 6) Wei FC, McKee NH, Huetra FJ, et al.: Microsurgical replantation of a completely amputated penis. Ann Plast Surg **20**: 317-321, 1983
- 7) Stunell H, Power RE, Floyd M Jr, et al.: Genital self-mutilation. Int J Urol **13**: 1358-1360, 2006
- 8) Murphy D, Murphy M and Grainger R: Self-castration. Ir J Med Sci **170**: 195, 2001
- 9) Rana A and Johnson D: Sequential self-castration and amputation of the penis. Br J Urol **71**: 750, 1993
- 10) 岡根谷利一, 水沢弘哉, 米山威久, ほか: 自己陰茎切断の2例. 泌尿器外科 **15**: 598, 2002
- 11) Thompson JN and Abraham TK: Male genital self-mutilation after paternal death. Br Med J Clin Res Edn **287**: 727-728, 1983
- 12) Myers WC and Nguyen M: Autocastration as a presenting sign of incipient schizophrenia. Psychiatr Serv **52**: 685-686, 2001

(Received on March 7, 2012)

(Accepted on June 20, 2012)